

第 1 回館山市議会定例会会議録
(第 4 号)

1 昭和61年3月10日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 横溝 功
7 番 榎本 春光
9 番 福原 勤
12 番 石井 謀
14 番 伊藤幸太郎
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
21 番 吉田勇治郎
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇
28 番 安澤 徳順

2 番 田沢 勝信
4 番 小宮 利夫
6 番 生稻 陞
8 番 日下 君敏
10 番 川名 正二
13 番 石井 昌治
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
20 番 石井 武敏
22 番 林 豊
24 番 流山源次郎
27 番 安西 益男

1 欠席議員 2名

11 番 飯田 義男

26 番 石井 正

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 川畑喜代志
経済部長 吉岡 政雄
教育委員会 高橋 弘之
教 育 委 員 会 長

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生部長 鈴木 力
水道課長 石井 敏夫
教育委員会 福原 修
教 育 委 員 会 長

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第4号)

昭和61年3月10日午前10時開議

議案第 8 号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する
条例の制定について
議案第 9 号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用

	弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 1 0 号	館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 1 1 号	館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 1 2 号	館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 1 3 号	館山市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 1 4 号	館山市行政財産使用料条例の制定について
議案第 1 5 号	館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 1	議案第 1 6 号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 1 7 号 館山市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 1 8 号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 1 9 号 館山市身体障害者結婚奨励金支給条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 2 0 号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 2 1 号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 2 2 号 館山市農漁業後継者結婚奨励金支給条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 2 3 号 館山市西長田農道、佐野農道及び神余頭首工災害復旧事業分担金徴収条例の制定につ

- いて
- 議案第 24 号 館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 25 号 市道路線の認定及び廃止について
- 議案第 26 号 昭和 60 年度館山市一般会計補正予算（第 5 号）
- 議案第 27 号 昭和 60 年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）
- 議案第 28 号 昭和 60 年度館山市老人保健特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 29 号 昭和 60 年度館山市と畜場特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 30 号 昭和 60 年度館山市学童災害共済事業特別会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 31 号 昭和 60 年度館山市水道事業特別会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 3 請願第 1 号 館山棧橋破損箇所の早期復旧に関する請願書

開 議 午前 10 時 03 分

○議長（流山源次郎君） 本日の出席議員数 25 名、これより第 1 回市議会定例会第 4 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第 1、議案第 8 号乃至議案第 25 号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1 番議員神田守隆君登壇)

◎ 1 番 (神田守隆君) 議案第 9 号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、及び館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねをいたします。

議員や執行三役の報酬等の引き上げの問題であります、とかくお手盛りの批判の出るところでございます。我が党は、議員報酬については基本的には議員が議会の活動に専念して勤労者としての平均的生活と議員独自の活動が保障される限度の金額が必要であると考えています。しかし、同時にそれは市民の十分納得でき得るものでなければならないのは当然のことであります。

こうした視点から、報酬審議会の審議が市民の感情の問題も含めまして十分尊重した審議が求められていると思います。とかく隠れみのの批判を耳にすることがあるのでありますが、この報酬審議会の審議はどのくらいやられたのか、経過について御説明をいただきたいと思います。

また、報酬等の引き上げは適当であるとの答申を得たとしていますが、この答申は各審議委員全員の賛成のものでなされたものなのかどうか、反対意見あるいは慎重意見なりあったのだとすれば、それらについて御説明をいただきたいと思うわけであります。

次に、議案の第 2 5 号市道路線の認定及び廃止についてお尋ねをいたします。

今回、現行の市道路線を一括して廃止し、新たに市道を一括して認定し直し、道路台帳を調整するということですが、まず第 1 点といまして認定にあたりどのような基準で認定をされたのか、基本的な考え方についての御説明をいただきたいと思います。

次に、こうして認定された市道の舗装率については、現在どの程度になりますか。

さらに、今後も市道への認定の問題が出てくると思うわけですが、その基準についてこれまで示されていた市道認定基準について変わりはないものなのかどうか。

以上、3点についてお聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、議案第9号、第10号についての御質問でございますが、報酬審議会での審議の内容についてのお尋ねでございますが、去る1月28日に館山市特別職報酬等審議会が全委員の出席により審議され、改定額及び改定期間とともに全委員の賛成により諮問のとおり改定することを妥当とする答申がなされましたので、今回御提案申し上げる次第でございます。

次に、議案第25号市道路線の認定及び廃止についての御質問でございますが、道路法第28条の規定により道路台帳の調整をするため市道の一括認定、一括廃止をお願いいたしましたわけでございます。

昭和54年度に基礎調査のため公図に基づき現場調査を行い、昭和55年度から昭和59年度まで5カ年計画で道路台帳の整備を実施してまいりました。

この整備の中で、市道の認定、廃止についての基本的な考え方といたしましては、原則として路面幅員4m以上の道路、ただし4m未満であっても集落より主要道に通じる道路、主要道と主要道を結ぶ道路、公共施設等へ通じる道路及び家屋が密集していて現在まで市道に認定されていた道路につきましては認定いたしました。また、ほ場整備区域内の完成した幹線道路も認定してございます。

なお、今回一括認定したものは、住宅が連檐しており、生活道としてのものは全部網羅したつもりでございます。

次に、市道認定から外した道路につきましては、山道、田畑の作業道、重複認定してありました道路及びほ場整備区域内で整備のためなくなった道路でございます。

今後の市道認定基準といたしましては、1、幅員4m以上の道路、2、起点、終点が少なくとも幅員5m以上の国道、県道あるいは市道に接している道路、3、公共施設等がありそのために利用される道路、4、家屋が連檐した部落と結ぶなど利用度の高い幹線道路であること、を認

定条件としております。

次に、この整備によりまして道路延長は307.3km、うち舗装済み延長は255.2kmでございます。舗装率は83％となります。

以上、答弁を終わります。

○1番（神田守隆君） 全議員の賛成で答申が得られたという御説明で、この件については質疑を打ち切ります。

議案の第25号であります、大体原則的な考え方についてわかりました。

そういうことで、ちょっと違った角度からですが、市道の名前の問題でちょっとお聞かせをお願いしたいと思うんですが、どのような考え方で市道路線の路線名を新たに付けられたのか。

従来、この路線の名称をめぐってはいろんな議論もあったようですが、見ますと3けたのものと4けたのもの、4けたのものについても何か意味ありげにいろいろ番号があるようなので、そこらがどういうふうになっておるのか。

それから、とかく番号による路線名というのは、住民からはなかなかなじみにくいという問題点が出てきがちだと思うんですが、そこいらについてはどのようにお考えか。

その辺についてお聞かせを願いたいと思います。

○経済部長（吉岡政雄君） お答えいたします。

どのような方法で番号化したかということでございますが、館山市の道路認定路線別冊1でございますが、101から9048までの番号が付されておるわけでございます。考え方といたしましては、101番から333番というところまでが館山地区、それから1001番から1220番までが北条地区、順次このように北条地区が1000番台、那古地区が2000番台、船形地区が3000番台、西岬地区が4000番台、神戸地区が5000番台、富崎地区が6000番台、豊房地区が7000番台、館野地区が8000番台、九重地区が9000番台、このように種分けしたわけでございまして、今後この番号は一応このものを使用していただきますが、市民の方々から道路の愛称等取り入れたらどうかというようなときには略称といたしまして、なじみのやすい名前と

いたしましてすずらん通りですとか、いろいろな愛称もつけていければいいんじゃないか、このように考えております。

○議長（流山源次郎君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） ただいま議題となっております議案第8号乃至議案第25号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第2、議案第26号乃至議案第31号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案の第27号昭和60年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第3号についてお尋ねをいたします。

国保会計については、本年度の決算見込みとして剰余金は現時点では見込めないとこれまでの御答弁の中にありましたが、補正予算の審議にあたりまして国保会計の現況についてお尋ねをしたいと思うわけであります。

補正予算では、国保税につき退職被保険者等国民健康保険税として1898万2000円の歳入が見込まれていますが、本年度の国保税の収納率は前年度に比べましてどのように推移をしておりますか。

次に、59年度決算では1292万円が不納欠損の措置をされておる

わけであります。国保税の負担が限界を超えているのかどうかの議論として公的負担が40%を超えたのかどうかという議論がございました。私はその議論もなるほど大事とは思いましたが、館山市民には長者番付に名前を出すほどの高額所得者もおれば、その反対の方も大勢いるわけでございます。長者番付に名前が出る人にとっては国保税の35万円というのは所得税などに比べて大変に安いでしょうし、これに対していわゆる低所得層には国保税は逆に大変に重税と感じられているんだろうと思います。負担の限界論についても所得階層ごとに様相がかなり違うのではないかと思います。そこで、不納欠損の処理につき所得階層別に分析をされたことがありますかどうかお聞かせをいただきたいと思いますわけであります。

以上、2点についてお尋ねいたします。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

国民健康保険特別会計補正予算についての御質問でございますが、第1点は昭和60年度保険税の収納率の見通しでございますが、61年2月末現在におきまして現年課税分につきましては74.2%、前年同月比1.0ポイント減でございます。滞納繰越分については14.4%、前年同月比1.2ポイント減となっております。合計で65.3%、前年同月比0.83ポイントの減となっております。

なお、すでに御答弁申し上げておりますように、本年当初に徴収業務用自動車を購入する等機動力の強化を図り、また時期にあわせまして徴収強調月間を設定いたしまして、滞納者に対する戸別訪問による納税相談を数多く実施する等収納率達成に向けて努力をいたしております。

次に、第2点目の昭和59年度国民健康保険税に係る不納欠損処分の内容についての御質問でございますが、所得階層別の不納欠損処分について調べたことがあるかという御質問でございますが、これはございません。

以上、答弁を終わります。

◎1番(神田守隆君) 収納率がやはり落ち込んでおるという傾向は今年度も続いているということで、大変な収納課の職員の努力も期待

しなきゃいけないんですけれども、しかしそれだけではなかなか解決できない問題が含まれているのではないかと思います。そういう点では計数的にこうした所得階層別にどういう階層がやはり収納率の上で非常に問題になるのか、不納欠損の上で問題になるのか、ぜひとも検討が必要なんではなかろうか。というのは、税のやはり考え方等についても国保税の場合いろんな考え方もあるようですから、どういう階層にどういうふうに負担を考えるのかという問題が必要だろうと思いますので、ぜひそうした分析をされた資料をつくっていただいて御検討いただきたいんですけれども、その1点についてだけ御質問いたします。

◎総務部長（川畑喜代志君） 不納欠損の額が、大分大きな額でありまして、私どもといたしましてもなぜ不納欠損せざるを得ないかということいろいろ検討しておるわけですから、今後は所得階層別の面におきましてもまた分析をしてまいりたい、かように考えております。

以上です。

◎議長（流山源次郎君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

次、22番議員林 豊君。御登壇願います。

（22番議員林 豊君登壇）

◎22番（林 豊君） 議案第31号昭和60年度館山市水道事業特別会計補正予算の第2号でございますけれども、この資本的支出におきまして2億7844万6000円の減額補正がなされたわけでございます。このことにつきましてはすでにおとといでございますか、田沢議員の通告質問がございまして、市側の答弁もお聞きをいたしました。

しかしながら、私はもう一步突っ込んでなぜ今年度にこれを実施をしなかったか、実施をする見込みがつかなかったというふうな市側の答弁でございますけれども、その交渉の回数であるとか、あるいは交渉の内容、それから大井、水玉、蘭、各部落の反対をしている理由、さらには考え過ぎかもしれませんけれども、市側がそれに対してどのような対応をなすったか、補償の問題等も考慮なされたのかどうか、もう1つ、市長はこの先どのようなお考えでこの拡張計画を推進なさるおつもりか、以上4点についてもう一度明確なる答弁をお願いをしたいというふうに考えるわけでございます。

よろしくお願いします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 林議員の御質問にお答えをいたします。

上水道布設は、長年にわたる地元の要望でございますし、水源の見通しが立ったときには地元の御協力が得られるものとし、早期に着手できるものと考え、当初予算に計上いたしました。が、本年度は見送らざるを得ませんので補正をお願いした次第でございます。

地元地区に対します折衝は60年4月に始め、関係5部落に対し全戸集会を各2回行い、計画の説明から取水についての補償案等提示し、説得に努め、協力方をお願いし、御意見等も伺ったわけでございます。

6月には、九重地区水道整備促進会が結成され、会長に九重地区区長会長、副会長にコミュニティ会長、委員に園区長ほか14区長があたり、促進のために御尽力を願っております。促進会も何回となく地元区との折衝をもたれ、また市当局と促進会の協議も6回ほど行っております。

これらを通じましての地元の意見といたしましては、既存井戸——それは生活用、農業用を含めて、既存井戸の水位が低下する、自分の部落の水を他の部落に送るのは困る、部落では水に困っていないから水道は必要ない、もし水道を布設する場合は水源部落の水道を全戸無償とする等々の発言がありましたので、市から取水による影響補償の内容等を示し、御協力を求め続けましたが、大井、水玉部落では迷惑施設という方もございますし、集会を行いましても1人の賛同意見の方もなく、区としての同意がとりつけられず、進展しないのが実情でございます。

取水により既存井戸に対する支障には十分補償を考えておりますし、4月には九重地区の大半の区長がかわられるようでございますので、新区長の方々にさらに御理解、御協力をお願いしてまいる予定でございますが、感触といたしましては全面協力を得られるのは大変難しいかと存じます。その対応といたしましては、計画の変更も検討しなければならないと考えております。

以上、答弁を終わります。

○22番(林 豊君) 今、市長の答弁でほぼその内容が明らかになっ

たわけでございますけれども、この地区は昭和46年から安房中央土地改良区の基盤整備事業を行ってまいりまして、すでに10数年を経過をしております。基盤整備事業を行いますと、その地区の水田は暗渠排水あるいは幹線排水路の整備等非常にほ場の整備が完備いたします。そうしますと今まで海綿体の役目をしておりました水田の水が我々の想像以上に低下をするということで、私の部落——これは46年にやりましたけれども、もうすでに80戸の部落のうち20数戸が井戸を新設をしてみたり、あるいは補さくをしてみたりしております。

その事象というものが、最近には西部地区の国分地区にも及んでおります。西部の基盤整備事業が進むにつれて国分ではことしは異常渇水であるというふうな条件もございますけれども、国分ではことし20数戸がまたさく水をしたということがいわれております。

この地方の井戸はみんな地下10mぐらいの井戸でしかないわけでございます。そういうことで将来ともだんだん水がなくなるということが予想されます。今、一番困っているのはやはり基盤整備を行った館野の東部の地区が非常に困っているわけございまして、この間市側から出されたアンケート以上に今では上水道を希望する者が非常にふえておるというのが実情でございます。

それで、補償の条件でもございますけれども、房州水道を接収したときの時点にかえて考えなければならないというふうなこともあろうかと思ひまして、非常に難しい問題ではあります。相当なお考えをもってひとつ鋭意交渉に当たられていただきたいというふうに考えるわけでございます。

まだ予算審議ではございませんけれども、61年度の予算を拝見いたしますと、その他という事項に866万円というものが載せられてあるようでございますが、先だって恐縮でございますけれども、その中には交渉の費用が含まれているのかひとつお聞きをしたいと思ひます。

◎水道課長（石井敏夫君） その他の費用の中には含まれておりません。

◎22番（林 豊君） 今、最後に市長さん、計画を変更せざるを得ないというふうなお言葉もお聞きをしましたけれども、何としても一日も早く地区民は上水道を希望しておりますので、とりあえずせっかく試掘

をし、多大の経費を費やした井戸でもございます。御答弁の内容によりますと、あるいはエゴになっているようなところもないでもないかと考えられます。とりあえずせっかくの井戸でございますので、ひとつ鋭意交渉に当たっていただいて、私どもも地元の議員といたしましてあらゆる問題で御協力を申し上げたいというふうに考えますので、よろしくお願いをいたしたいと存じます。

以上で、質問を終わります。

◎議長（流山源次郎君） 以上で22番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

◎8番（日下君敏君） 議案の26号の昭和60年度館山市一般会計補正予算について1、2お聞きいたしたいと思います。

第1点が、土地開発基金と財政調整基金の利子相当分が増額補正になっておりますが、この基金の現在高——土地開発基金と財政調整基金の現在高、なるべく新しい方がよろしいと思いますが、それがいかほどになっておるのかお聞きいたしたいと思います。

それと、歳出の総務費で地方バス路線維持費の補助金が増額補正になっておりますが、これはどの辺の路線が赤字でそうっておるのかをお聞きいたしたい。

それと、もう1点。やはり補助金で遠距離通学生徒の通学費の補助金が208万4000円増額になっておりますが、この理由をお聞きいたしたい。

以上、3点でございます。

◎市長公室長（斎藤武男君） 19ページの地方バス路線の維持補助金の関係でございますが、議案説明資料34ページをちょっとお聞きいただきたいと思います。この中に大方の説明が出ておるわけでございますが、国の地方バス路線運行維持対策要綱、それから千葉県補助金交付規則等の要項に基づきまして地域住民の日常生活に必要な交通の利便、確保を図るために、赤字路線運行しておりますバス路線に対しまして補助を行っているものでございます。

これは毎年経常経費が明らかになります9月の決算時期を終えまして、

このような形で追加補正をお願いしておるものでございます。

以上でございます。

◎総務部長（川畑喜代志君） 財政調整基金の現在高はどれくらいかということですが、59年度末では9億8000万ほどございまして、60年度の当初予算で1億8000万の取り崩しをさせていただきましたので、あと今年度内の発生する利子を勘案いたしましておおむね8億4000万ほどになる見込みでございます。

それから、土地開発基金につきましては、今、資料を持っていませんので、もうしばらくお待ち願いたいと思います。

◎教育長（福原 修君） 34中学校の方の学校管理費の遠距離通学生徒通学費補助金の208万1000円の補正額でございますが、1つは昭和60年の1月に約10%のバス路線の値上げがあったということ、それからもう1つは予算を作成するにあたりましては、11月ごろ来年度の必要生徒数推測して出すものでございますから、その生徒数が実際ふえた——130人の予算の計画140人に西岬地区が10人ふえまして、笠名地区が3名ほど減ったわけでございますが、このような生徒数の増ということで補正をいたしたわけでございます。

以上でございます。

◎8番（日下君敏君） 地方バス路線の、俗に赤字補てんは当初の予算に載せるのではなくてこのように最終的にやるわけですね。わかりました。

それと、財政調整基金ですが、8億4000万程度ですか、当初予算では財政調整基金の4700万ですか、それが1400万増額された、このふえた理由は主に何でしょうか。

土地資金についても増額補正していますので、その増加した理由をお聞きいたしたい。

◎収入役（山田俊康君） 資金運用によります利子の増加分でございます。

資金運用しております——一般的には定期預金ですと年5.5%ということでございますけれども、年度間CDあるいは現先、あるいは外貨預金等それぞれの最も利率のいい時期に、いい期間を運用しているわけ

です。昨年の場合ですと、9月20日前後に日銀総裁が債券等のレートが低過ぎるというようなことを言ってから約3カ月間は相当債券の利率が高騰いたしました。そういった時期も経ておりますので、このような利子の増加が見込めたわけでございます。

○総務部長（川畑喜代志君） 土地開発基金の現在高でございますが、現金といたしましては9400万ほどでございます。

以上です。

○8番（日下君敏君） 財政調整基金は当初の予定していた運用をいろいろ変えたということではなくて、本筋はそのとおり運用しているんだけど、たまたまそういった債券の金利その他が上がったんでこのような増額になったんだ、こういうことでしょうか。

○収入役（山田俊康君） 一般的に考えられますことですと、定期預金というのが従前は主流であったわけですがけれども、それをよりいいものにといいことで、現在では運用益が少しでもいいものに運用しようということ考えて運用しております。そのためにレートが上がったときにはこのような利子の増加が見込めるということでございます。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。

○2番（田沢勝信君） 水道問題の減額補正について先ほど林さんから質問がございましたけれども、私の方でもう少し詳しくお尋ねしたいと思うんですが……。

昨年12月にアンケートをされたと思うんですが、このアンケートによりますと、回答が949戸あって、水道を希望するところが641戸の67.5%です。それで希望をしないという方がそのうち286戸あって、その理由として自家水で十分だという方がいるわけです。

これまで調査された水源、これを用いた場合に水玉地区あるいは大井地区の方が反対されているということでございますけれども、ここの地区を含めまして、水道を希望しない方がどのくらいになるのか、それをお聞かせ願いたい。

それと、もう1つは、先ほどこの2つの地区に対して補償問題を含めて話し合いをもってきているということなんですが、その補償の内容につきまして少し説明をいただきたい。

といいますのは、明らかに自分の井戸が使用できなくなるということであれば、全面的に補償をしなければいけないというふうに私も思うんです。ところが、反対理由の中にはさまざまな理由があると思うんです。例えば自噴ができなくなって井戸を掘らなければいけない、これは私も幾つかの方に事情を聞きましたけれども、現在も雨量が少ない——先ほど林議員もお話がございましたけれども、田んぼの耕地整理、これがあつために自噴がなくなって今新たに井戸を深くしているんだ、これが大体20万かかる方もいらっしゃるれば35万かかる方もいらっしゃる、大変な負担になっているわけです。

そういうことを含めて補償をしていく——現在の水源、井戸を用いて上水道をひいた場合にまた下がるという可能性もあるわけですね、水位が。当然水道を希望しない方は深く掘ると思うんです。掘らなければいけないような状況も出てくると思うんです。こういうことも含めて補償をしていくというお考えなのか、その補償の内容についていまだ少し詳しく説明願いたいと思うんですが……。

○水道課長（石井敏夫君） お答えいたします。

第1点のアンケートによる水道加入を希望しない方の状況でございますが、地区について申し上げます。大井地区で希望しないのが29戸、水玉地区6戸、パーセンテージにいたしまして大井地区が59.2%、水玉が31.6%、これがアンケートによる希望しない方の状況です。

続きまして、補償の内容でございますが、先ほど来市長の説明にもございましたが、水道整備促進会といろいろ話し合いを進めまして、それらと補償の内容については煮詰めたわけでございます。そういう中で協定を結ぼうということで進みまして、協定案ができております。その案を示したわけでございます。

内容といたしましては、全体的には、取水について観測用の井戸を設けまして常時水位の観測を行い影響力は最小限にするよう努める、必要に応じては取水の制限または一時停止、こういうものも考えてまいります。

それから、既存の井戸に対する補償でございますが、自噴が停止した場合とそれから単に地下水の低下という場合もございますが、自噴が停

止した場合には既存の井戸のポンプの吸管の延長、それから井戸側の増設——これは井戸の状況によって異なりますが、そういうことをした上に上水道を設置する。いわゆる給水装置工事を行うということでございます。それから、水位が低下したために既存の例えば浅井戸用ポンプでできないという場合にはポンプの取りかえを行う。既存の井戸が全く使用できなくなった場合はどうなるか、この場合には水道でもって補うわけでございますが、使用水量については補償する。

それから、既存の農業井戸についてでございますが、またこの農業井戸がたくさんございますが、自噴が停止したときには電気の設備をしてポンプを据えつけ、維持費用については市が負担する。それから、単に水位が低下したというものについては発動機等で上げられますように井戸側の増設を行う。

それから、もう1点、新しく3カ所に井戸を設けますが、その周辺農地に対しましては新しい井戸から従前相当量の水を農業用水として放流する。

こういうような内容で、水道事業として可能な限りの支障に対する考えは提示いたしましたわけでございます。

それから、現在の井戸を濁水によりさらに皆さんが深くしているというようなことでございますが、この大井、水玉地区につきましては、10m、20mの井戸じゃなくて100数十mから200数十mに及ぶいわゆる深井戸が多い、そういうようなことでございますので、深井戸の関係につきましては濁水につきまして井戸水の減少というのはあまり見られておりません。

以上です。

◎2番（田沢勝信君） 第1点目の、昨年のアンケートのときに水道を希望しないという方が286いたわけです。今回、現在の水源を使った場合に自分たちの井戸の水位が下がるということで新たに希望しないという方も出ていると思うんです。それで、昨年の12月のアンケートでは希望しないが286いて、新たに希望しないという方が出ますからふえたと思うんです。それで、今、現在推定で結構ですが、水道を希望しないという戸数が幾らになるのか。例えば水玉と大井の地区を含めて

希望しないのが幾らになるのか、それをお聞きしたい。

補償問題についてはわかったんですが、これは市長さんにお尋ねしたいんですが、どうもお話を伺ってますと地区の住民の要望があれば市がやるんだ、今回みたいに同意してくれないという状況があると非常に市の方が消極的だというふうに考えざるを得ないんです。そういうふうにはか思えないんです、私は。半導体の工場がきたときの論議なんですが、あのときは市長さん含めて非常に住民の不安もあったわけですが、あのとき市長は万が一水問題が起きたときは全面的に市として補償していくんだ、責任を持つんだ、大変な決意で臨んだわけです。ところが、今回、見てみますと、6回ほど話し合いをもっている、あるいは促進会をつくって相談しているということなんですが、これまで市長さん含めて地区に直接出かけていって協力をお願いしたことがあるのかどうなのか。その点をお聞かせ願いたいと思います。

◎水道課長（石井敏夫君） 第1点目の水玉、大井の関係でございますが、大井部落全戸で56戸ございます。それから、水玉が13戸ほどございます。したがいまして、大井、水玉にだけついて見ますと約70戸、これはいわゆる戸数でございますので、このほかに30本ほどの農業用井戸がございます。それから、藺の周辺としましては清水という部落、それから安東という部落がございますが、ここも掘り抜き井戸がかなりございますし、大井、水玉を除きましても相当数近隣には深井戸があるという状況でございます。

それで、このアンケートについて、私たちが地元の説明会に参りましたときの御意見の中に、このアンケートに加入希望として申し出たのは当部落の地下水を使うのではなくて、ダムによって水を持ってきてくれる、そういう状況ならば加入を希望するというような御意見もありました。参考までに申し上げます。

◎市長（半澤良一君） 私が直接地元の方々とお目にかかったことはございませませんが、水道課担当者は誠意をもって接触をいたしておりまして、水を汲み上げたときに起こり得るあらゆる場合を想定いたしましてでき得る限りの補償措置をとるという——ただいま協定案をお示ししたとおりでございまして、市としては最大限の誠意をもって対応してきたつも

りでございます。

それにもかかわらず、現在のところは得られないということでございますが、今後とも誠意をもって地元と折衝を続けたいと考えております。

◎2番(田沢勝信君) 私は、先ほど協定案の内容を説明いただきましたが、大変反対者に対しても不安を解消するような協定案を示されて交渉している、これは十分わかるんです。しかも、昨日来もお話ございましたけれども、いわゆる水源については随分調査されて影響はないんだ——いわゆる現在の水源について不安はないんだ。全戸に水道を引くだけの水はあるんだということですから、当然この上水問題は引ける、住民に対しても補償を十分し得るという内容になっています。ところが、十分な合意が得られない。

市の水道課として誠意をもって交渉しているということなのですが、最後に市長さんに再度お尋ねしたいんですが、当然水道課として誠意をもった交渉をしている、やはり私は2億を超す補正減額ですから当然市長さんなり助役さんなり含めて地元に出向かれて——当然市の水道課の職員の皆さんは誠意をもって交渉していると思うんですが、その上にさらに誠意を示すという意味では市長さんなり助役さんなり直接地元に出向かれて説明して納得を得る、そういうことがあって当然だと思うんです。2億の補正ですよ。しかも何年間もこの問題については議会の側からも要望があると思うんです。それを水道課に任せておくということではいけないと思うんです。今後、市長さんに要望でもございますけれども、市長さんが直接出向かれて住民と十分話し合いをもってやられていけるつもりがあるのかどうなのか最後にお聞かせ願いたいと思うんです。

◎市長(半澤良一君) 私が出かけて了解が得られるものならいつでも出かけることにやぶさかではございませんけれども、先ほども申し上げましたけれども、いろんな意見が出て、言葉が出ているわけでございますが、やはり自分の部落の水を他の部落に送るのは困るとか、自分のところは水が困っていないから水道は要らないんだというような、非常に感情的なといいますか、残念ながら全体の立場を考えていただけない発言が、考え方が大変多いわけでございまして、これを解決するのにはちょっとやはり私が行ったぐらいでなかなか解決ができるかどうかわかり

ませんけれども、しかし今後誠意をもって交渉していく過程の中でそういう見通しがつくようでしたらいつでもお伺いしたいと思います。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） ただいま議題となっております議案第26号乃至議案第31号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第3、請願第1号館山棧橋破損箇所の早期復旧に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（流山源次郎君） 次に、請願趣旨につき紹介議員の説明を求めます。

（27番議員安西益男君登壇）

○27番（安西益男君） ただいま朗読のございました請願第1号について御説明申し上げます。

この請願は、新井地区の松本区長さんを初め100名によるものでございますが、これは新井地区の役員、あるいは主だった方たちの署名でございますが、同時にまた新井区全員の願いであり、また要望である、このように承っておるわけでございます。また、広くは館山住民の方たちの願いでもあり要請でもある、このようにも認識しておる次第でございます。

この件につきましては、当議会におきましては再々にわたり私どもより御要請申し上げ、また当局よりもその都度大型工作船の回航のあり次

第着工するとの方針が示されておるわけでございます。

海の館山、そしてまた観光の館山としての鏡ヶ浦、そのまた象徴ともいえます館山棧橋、さらにまた夕日に映える富士を背景とした景観はまた格別のものがあるとも評価されておるわけでございますが、なおまた、それに引き続きましてこの館山棧橋の存在ということも大変価値的な立場にあるということも評価されておるわけでございます。

今なお、残骸が露呈されたままであるということは、非常に危険度も重視されておるということで憂慮されておるわけでございます。

どうか、この状況を一日も早く解決されますよう請願の趣旨を御理解いただきまして、満場の皆さま方の御賛同を賜りたく、紹介議員を代表いたしましてよろしくお願いする次第でございます。

以上です。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては建設経済委員会に付託いたします。

延 会 午前 11 時 02 分

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明 3 月 11 日午前 10 時開会とし、その議事は昭和 61 年度各会計予算の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 議案第 8 号乃至議案第 31 号
- 1 請願第 1 号